



042 (477) 9891

事務所が移転します（電話番号は同じです）

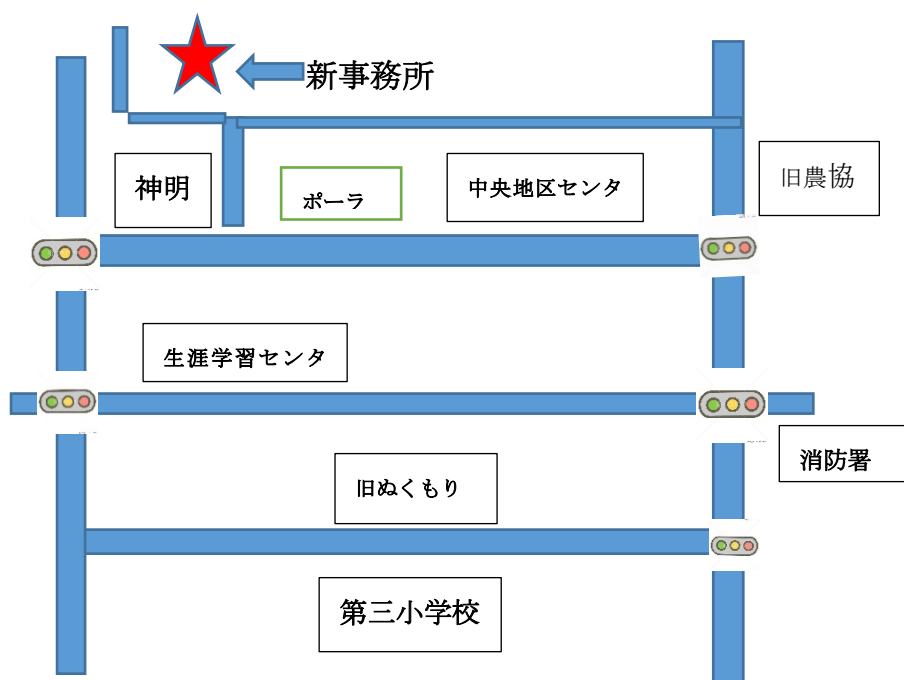
この度、下記に事務所移転となります。10月26日（月）から新事務所での開始となります。

新事務所は閑静な住宅地にあり、仕事環境としてはとても良いと考えます。

皆様のご期待に応えるようこれからも努力いたす所存でございます。

お近くにお越しの節は、ぜひお立ち寄りいただけたらと思います・

なお、約25年間利用した旧事務所は解体され、個人住宅に転用される予定であります。



新住所 〒203-0054 東久留米市中央町 6-2-5 ハイツたかはし 101
電話 変更なし 042-477-9891 FAX 042-470-7682

インフルエンザの予防接種を受けるべき「3つの理由」

日々、新型コロナに怯える毎日ですが、本年、インフルエンザ接種が特に大切な様子です。以下の記事をご参考にしていただけたらと思います。



新型コロナウイルスのパンデミックが続くなか、秋から冬にかけて流行する季節性インフルエンザの時期が訪れた。いまだに新型コロナウイルスのワクチンが完成しないなか、インフルエンザのワクチンを接種しておくことには、実は3つの点で大きな意味がある。

1. インフルエンザの予防接種は医療機関への負荷を減らす

インフルエンザによって毎年、多くの入院患者や死亡者が出る。今年はコロナの患者がその数に追加されることで、医療関係者、病院、老人福祉施設などが二重の意味で大きな影響を受ける可能性があるとして予測されている。コロナのワクチンがいまだ開発中であることを考慮すると、各機関の潜在的な負担を少しでも減らす最善の方法が、一方の感染症をある程度は予防できるインフルエンザの予防接種というわけだ。「インフルエンザにはかなり効果的なワクチンがあります。ICU（集中治療室）を、予防接種を受けていないインフルエンザ患者で埋め尽くす理由はありません」と、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の疫学者ジョージ・ラザフォードは説明する。コロナとインフルエンザの初期症状には似ている点があることから、不安に駆られた多くの患者が病院に押し寄せる可能性がある。

2. 予防接種はインフルエンザとコロナの重複感染の予防になる

インフルエンザとコロナの同時感染については、医学ジャーナル誌『THE LANCET』で4人の症例と、米国でも1例が報告されている。これらのケーススタディにおいては人工呼吸器を使用した患者もいたとはいえ、二重感染でもコロナの症状や治癒の過程とさほど変わりがなかったことが報告されている。しかし、症例が極めて少数なので、重複感染が重症化を引き起こすかどうかはさらなる調査が必要である。それでもインフルエンザは、コロナに限らず、ほかの病原体（細菌、その他のコロナウイルスによる風邪など）に対して感受性を高めることが知られている。重複感染はしばしば起きることから、一方を避ける意味でもインフルエンザの予防接種は重要といえる。

3. インフルエンザのワクチンはコロナの心血管系疾患にも予防効果がある？

「コロナとほかの呼吸器ウイルス感染症は、急性心筋梗塞やほかの心血管系の症例に関連づけられています。インフルエンザのワクチンが、心血管リスク低減のための最適な選択肢であるという証拠もあります」と、トロント大学の循環器科医ジェイコブ・ウデルは説明する。「いくつかの観察と小規模なランダム化臨床試験では、インフルエンザの予防接種は危険な心血管系疾患の予防として役立つ可能性があることを示しています」「Journal of the American College of Cardiology」に掲載された最新のレビューによると、インフルエンザのワクチンが心血管疾患リスクを低下させることを示した6つの小規模な研究結果と4つの観察結果を、より大きなランダム化比較試験により実証しようと試みている。この大規模な臨床試験の結果はいまだわからないままだが、心血管疾患を基礎疾患にもつ人々にインフルエンザワクチンを接種することで、少なくともコロナにおける心血管系の重症化に対する予防効果が期待されている。

インフルエンザ予防接種の対象年齢は、生後6カ月以上のすべての人となる。ワクチンによる免疫反応は時間の経過とともに薄れてしまうことから、ほとんどの人にとって 10月 がワクチンを接種するタイミングとして理想的とされる。 以上 NATURE 2020.10.13 から